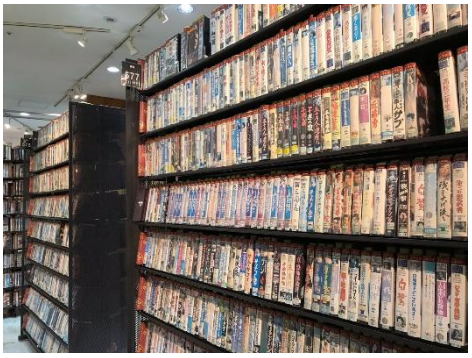
【寄稿】

ATEM の 30 年

藤枝 善之

創立

ATEM は、21 世紀の扉を視野の片隅に捉えたある男の、怒りを含んだ自問からその歴史が始まる。「なぜ日本人は、学校で最低 6 年間英語を習いながら、満足に英語が使えないのか！？」男は学校の先生でも大学教授でもなく、世界の自動車産業を調査する中堅企業の社長であった。その一方、男は映画好きで、休日にしばしば地元・名古屋の映画館に出かけては、アメリカ映画を観て楽しんだ。男は、名を鈴木雅夫と言った。



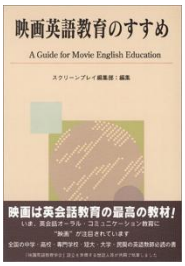
1970 年代後半から、映画を取り巻く状況に大きな変化が起きていた。1975 年にベータ規格（ソニー製）の家庭用ビデオデッキが発明され、1976 年に VHS（ビクター製）のビデオデッキが商品化された。1980 年代に入ると、VHS のビデオデッキと映画ビデオソフトが徐々に日本社会に普及し始め、1984 年以後、ビジネスとしての法的環境を整えたレンタルビデオ店が急増した。すなわち、1980 年代後半には、多くの人が安く、手軽に好みの映画ビデオをレンタルして視聴できるようになり、学校の教員も比較的簡単に、授業で映画を使えるようになった。

このような状況を見た鈴木氏に、あるアイデアが浮かぶ。「そうだ、アメリカやイギリスの映画ではオーセンティックな英語が話されるから、映画は英語音声教育の良い教材になる。映画を観ると英語が使われる状況・コンテキストも視覚的によく分かる。しかも映画作品は、人間や社会、文化を学ぶ教材にもなる。日本の英語教育には映画のビデオを使えばいい。よし、出版社を立ち上げ、映画を使って英語を学び教える教材を世の人に提供していこう」。こうして鈴木氏は 1988 年、スクリーンプレイ出版（株）を立ち上げ、以下のような英語圏映画のシナリオ教材を出版し始めた。

1988 年『E.T. The Extra-Terrestrial』（1983 年製作）
1990 年『Star Wars』（1977 年製作）
1990 年『Top Gun』（1986 年製作）

1991 年『Raiders of the Lost Ark』（1981 年製作）
1992 年『Rocky』（1976 年製作）

このシリーズは他社の映画シナリオ教材とは違って、元のシナリオの台詞が実際に映画で使われている英語に置き換えられており、音声教材として大変使いやすいものだった。結局、2021 年まで約 200 タイトルのシナリオ教材が出版された。それに加えて、映画の用例を使った英語教育書や英語圏文化の教養書もスクリーンプレイ社から数多く出版された。



良い教材・教育書を出版するには教育メソッドの研究を深める必要があると考えた鈴木氏は、次に、映画英語教育の理論と方法を専門に研究する学会の設立を検討し始めた。これは、映画英語教育の中身を充実させるには、同じ目的を共有する産業界と学術界の「産学協同」が重要、という鈴木氏の信念に基づいたものであった。

1993 年から鈴木氏は、大学教員や高校教師、映画業界関係者に「映画英語教育学会」設立の構想を訴え、協力者を求め始めた。そして、1994 年 3 月 12 日に東京のお茶の水スクエア において「第 1 回映画英語教育シンポジウム」を開催し、ソニー・ピクチャーズやワーナーブラザーズジャパンの幹部を含む 120 人の参加者を集めた。このシンポジウムの参加者のうち 87 名が学会創立の発起人となり、ATEM 創立の機運が高まった。

1994 年のシンポジウム成功後、鈴木氏は、英語教育界の重鎮であった東大の鈴木 博教授に ATEM 初代会長就任を依頼し、鈴木教授が承諾。1995 年 3 月 18 日、青山学院大学にて ATEM 結成大会が開催され、ここにユニークな日本の学会、映画英語教育学会 The Association for Teaching English through Movies (ATEM) （会長：鈴木 博、副会長：曽根田憲三 他 2 名）が誕生した。そして、スクリーンプレイ社が ATEM の事務局（事務局長：鈴木雅夫）を担当することになった。

1996 年、鈴木会長の韓国の友人 Dr. Choe Yongjae が、相模女子大学で開催された第 2 回 ATEM 全国大会に参加され、ATEM の活動に感銘を受けて帰国された。彼は、同様の学会を韓国にも作る必要性を感じ、新学会設立の運動を始めた。そして同志を求めて活動する中で、新学会会長に最適の人物を見つけた。それが若き Dr. Lee Jawon だった。1998 年 12 月、韓国に The Society for Teaching English through Media (STEM)が誕生した。

2000 年 5 月、第 6 回 ATEM 大会が福岡市の中村学園大学にて開催され、STEM 創立の立役者 Dr. Choe、初代会長 Dr. Lee、その他数名の役員が参加した。大会後のミーティングで両学会が友好関係を結び、交流を深めることが合意され、その後、今日まで活発な交流が続いている。STEM との友好関係は、ATEM の歴史における最も大きな遺産の一つであろう。

発展

両学会の交流に特に貢献した ATEM 理事の名を挙げる。

鈴木博（初代会長）
曽根田憲三（初代副会長）
高瀬文広（初代国際交流委員長）
倉田誠（2 代目国際交流委員長）
井村誠（3 代目国際交流委員長）
SPRING Ryan（4 代目国際交流委員長）

特に、鈴木初代会長、曽根田初代副会長、高瀬初代国際交流委員長の３名は、STEM との交流における ATEM のパイオニアと言える。

スクリーンプレイ出版は、その後、ATEM の研究成果を踏まえて、2002 年、高校生向けの英語の検定教科書を出版。本の出版以外にも、クローズドキャプション・デコーダや DVD の英語字幕読み取りソフトを発売したり、映画の英語台詞検索ソフトを無料提供したりして、ATEM 会員の英語教育や教育法の研究に大いに貢献した。鈴木雅夫氏は ATEM にとって、偉大な創立者、計画者、組織者で、かつスポンサーだった。

同社は、ATEM 設立の準備、立ち上げ、運営に多くの時間と多額の資金を費やしたが、あいにくそれに見合う利益は上げられなかった。2007 年、同社は ATEM 事務局の運営から離れ、その後の運営を鈴木氏の友人（真下富雄氏）が社長を務める広告会社・広真アドが引き継ぐことになった。

ATEM 理事会の歴史は、マネージメントセンターの観点から３つの時代に分けて考えることができるだろう。1995 年-2007 年を創立者、初代事務局長の鈴木雅夫氏率いるスクリーンプレイ出版の時代、2007 年-2020 年を事務局長の真下富雄氏率いる広真アドの時代、2020 年以後を会長研究室の時代と仮定するのである。そうすると、初代・鈴木会長と２代目・曽根田会長およびその理事会は「スクリーンプレイ出版時代」、次の磐崎弘貞会長、角山照彦会長、倉田誠会長とその理事会は「広真アド時代」、次の横山仁視会長、SPRING Ryan 会長とその理事会は「会長研究室時代」に属することになる。

真下氏は強力なリーダーシップとサポーターシップを発揮して理事会組織を改革し、各理事が具体的な仕事を分担するようにした。真下事務局長のサポートを受けて、角山会長は理事会の運営を合理化し、その理事会は 2011 年、全国大会に「支部企画」を導入することにした。そして 2012 年より論文募集の際に「優秀論文賞」を設け、応募者の増加に貢献した。また、倉田会長とその理事会は 2018 年、学会としての研究対象を拡げることの意思表示として、学会名を「ATEM（The Association for Teaching English through Multimedia/ 映像メディア英語教育学会）」に変更した。同時に、特定の研究テーマを共有する研究グループ（Special Interest Group、通称 SIG）の設立を会員に勧めることになった。

2018 年、横山仁視氏が会長職に就いたが、2020 年には広真アドの都合もあって、事務局を横山会長の研究室に移し、藤枝善之が事務局長を務めることになった。ここに至って、ATEM 理事会は ATEM 史上初めて、外部の企業から完全に独立し、教員だけで運営する組織になった。横山会長と藤枝事務局長は事務の合理化に努め、2023 年、その理事会は学会の名称を「映像メディア英語教育学会 （英語名：The Association for Teaching English through Multimedia、通称：ATEM）」に改めた。

横山会長の時代はまた、コロナ禍の時代でもあった。2019 年末から、日本はコロナ禍に見舞われた。2020 年の全国大会は中止され、2021 年～2023 年の大会はオンラインでの開催となった。学会の活動も沈滞化を余儀なくされたが、その中にあって、小林敏彦支部長率いる北海道支部は 2020 年から２年間、Open Online Presentation Series（OOPS）を開催し、STEM を含めた多くの参加者を得て、好評を博した。小林支部長を中心とする北海道支部のこのシリーズは、コロナ禍で消えそうになっていた ATEM の研究活動の火をかろうじて燃やし続けたと言える。

ATEM は、特定の映像メディアやマルチメディアが一般社会に普及する動向に歩調を合わせて発展を遂げてきた。その歴史を振り返ると、今日の ATEM はその多くを先人たちの知恵と努力に負っていることが分かる。特に次の３人の功績は大きい。創立者・初代事務局長の鈴木雅夫氏、初代会長の鈴木博氏、２代目事務局を事務局長として運営した真下富雄氏。先人の働きに心より感謝し、その功績を胸に留めておきたい。

2024 年 11 月、SPRING Ryan 氏が ATEM の新会長に就任した。SPRING 会長と新しい理事会は、2025 年に ATEM 創立 30 周年を迎えたのを機に、ATEM の過去と未来をしっかり見据え、次の 30 年の課題に果敢に取り組んでいくことだろう。

ATEM ジャーナル 30 号表紙

藤枝善之氏の ATEM 活動歴

1996 年 ATEM 入会。

2002 年 ATEM 関西支部を創立（2013 年まで西日本支部長）。

理事会理事（2001－2024 年）; 副会長（2005－2011 年、2021－2024 年）、大会運営委員長（2013－2024 年）、事務局長（2020－2024 年）、大会実行委員長（2004 年、2012 年、2015 年）、その他（紀要編集委員長、Newsletter 編集長など）を歴任。事務局長兼副会長として中部支部再建に携わる（2022－2023 年）。

2025 年 ATEM 特別功労賞を受賞。

（2023 年、ATEM 副会長として BS テレ東『武田鉄矢の昭和は輝いていた』に字幕翻訳家の戸田奈津子氏と共に出演。近著に SCREEN 新書『字幕で味わう映画の名せりふ』）※写真はテレビ出演時